

平成26年10月23日

## 君が代の「さざれ石」について

「さざれ石」というと、君が代の歌詞に登場する石として有名です。しかし、言葉で知っているでも「さざれ石ってどんな石のこと？」と聞かれたときに、即答できる人はそれほど多くはないかと思います。

この「さざれ石」は国歌発祥の地と云われる岐阜県春日村の山中で発見されたもので、天然記念物になっています。

平安時代、文徳天皇の皇子 もんとく 惟喬親王 おうじ に仕える藤原朝臣石位 これたか 左右衛門 ふじわらのあそん という人 いざえもん が、春日村のさざれ石を見て詠んだ歌が「わが君は千代に八千代にさざれ石の巖となりて苔のむすまで」の一首でした。この歌は、「古今和歌集」に採録されることになりましたが、石位左右衛門は余り身分の高い人ではありませんでしたので、「詠み人知らず」として発表された後に、この歌によって位を賜りました。すなわち、石に関連があるので石位左右衛門と改名したのです。

なぜ、「さざれ石」というかということ、これは平安朝の時代に書かれた御伽草子の中の登場人物のお姫様の名前に「さざれのきみ」というものがあり、それがもとになっていると言われています。

さざれ石を漢字で書くと「細い石」となるようで、もともとは小さな石のことをさしています。

君が代の歌詞を続けて見ていくと、「さざれ石の巖となりて」という文章になっていますが、これは小さな石が長年をかけて巖という大きな石になるまでの大きな年月を示すものとして引き合いにされているのです。

小さな石が大きくなるなんてことが本当にあるの？と思う人がいるかもしれませんが、岐阜県春日村にあるさざれ石の成分は、炭酸カルシウムや水酸化鉄によるもので、これら小さな石と石の間にこのような成分が挟まってくることにより石どうしがつながり、やがて大きなものになっていくことができるとされています。

学術的には「石灰質角礫岩 かくれき」という名称もあるくらいで、石灰岩が雨水により成分が溶け出すことによって、粘着力のある乳状液が表面に流れ出ていくことで地中において、周辺の小石をつなぐ役割をするということが化学的にも実証されています。

それで、この国歌の歌詞の意味は、宇部ロータリークラブの元会員の山本一男さんによりますと、「わが夫の命が、千年も万年も続いて、小さな石が大きな岩となり、それに苔が生えて夫との間にいい心が生まれますように。」となるそうです。

また、同じ要因によってできあがった「巖となったさざれ石」は全国各地に存在しており、

いずれも神聖な力によって出来上がったものとして神社などに奉<sup>まつ</sup>られています。この近くでは鹿児島県霧島市の霧島神宮にもあります。

日本一の大きさを持ったさざれ石とされるのが、京都上京区にある護王神社のもので、表面に苔もついていることから君が代の世界観を感じさせてくれるものになっている。

本日は「さざれ石」について話をさせていただきました。

これで会長の時間を終わります。